

子育ては大変

だけど楽しく

はじめに

現在、日本においては、子育ての楽しい部分がなかなか伝わりにくく、むしろ大変さや、お金がかかること、いじめ、虐待など、暗いものが多いのは、なぜでしょうか。

このような状況のなか、厚生労働省は少子化対策の一環として、児童福祉法を改正する方針を固めています。新年度予算に子育て支援策として一兆四百億円を盛り込み、育児にかかわるすべての家庭を対象に、相談事業、家庭訪問、一時預かり、といったサービスを定め、法的に位置付けることで、市町村の取り組みを促進する方針です。

昨年9月に同省がまとめた少子化対策

の新プランでは、2〜3年以内に育児休業の取得率を、男性10%、女性80%とする目標値なども盛り込んでいます。（現在の男性の取得率は、0・55%）
ここで、子育てについて考えるにあたり、基本的な心構えを確認してみましよう。

子育てがどんなに大変でも、子どもが本来もっているステキな部分を見失わず、子どもを信頼するためには、まず大人自身が、人間に対する深い信頼感をもっていることが大切です。そして、「人間はだれでも、成長し変化することが可能である」ということについて揺るぎない信念が必要で、子育ては、時に苦しいこともあるけれど、子どもは大人にとって、いろいろなことに出会わせてくれる存在であり、大人がもう一度成長できるチャンスを与えてくれるのです。

立ちどまって、ゆっくりじっくり見つめると、新たな発見がたくさんあるはずですよ。



現代の家族

子育てには様々なかたちがあります。

家族のかたちも様々です。家族全員で食事をすることも少ない現代の私たちの生活を考えると、長時間労働と遠距離通勤という問題がうかがいあがってきます。日本の多くの男性は、家に帰るのは、夜、寝るためにだけ。だから日常、自分の妻がどうやって子どもを育てているのかわからない。慣れない赤ん坊と一日家に閉じこもっていてどんなに不安な思いをしているか。赤ん坊を抱き幼児の手を引いて、荷物を持って、どうやってバスに乗るのか。子どもが学校から帰ったら、どんなことをしているのか。夫と妻との間には、性別役割分業によって超えがたい意識のギャップがあります。

お互いに家族の関係をづくりあげてゆく努力がないと、現代のような急激な社会の変化の荒波にのみこまれてしまいうです。

